# Ⅲ　今回のプロジェクトにより得られた知見

関東インフラプロジェクト・アーカイブス（No,9）では、全6件のプロジェクトをとりまとめています。それぞれのプロジェクトの事例における関係機関・事業との調整、自然環境・周辺環境等への配慮、コスト縮減・工期短縮について以下に整理し、今後に活かすべき知見について記載しました。

今後のプロジェクト実施にあたっては、これらの知見をふまえ、一層適切・確実・迅速に推進していきたいと考えます。

## １．関係機関・事業との調整、地域の活性化等について

以下のとおり、プロジェクトの実施にあたり、地域や関係機関との調整、連携等を図った事例がありました。

・官庁営繕事業において、地方公共団体等関連機関と連携することで、合同庁舎整備とあわせて、“まちづくり”の創出につながり、地元の活性化や魅力発信、利便性の向上、景観形成など様々な効果が生まれエリア価値の向上へも寄与しています。

・河川環境整備事業においては、運動広場などの地域のまちづくりと一体となって水辺整備を実施したことで、魅力ある水辺空間が創出され、各種スポーツ大会の開催などで利用者数が増加し、賑わいの創出に寄与しています。

一方で、河川に近づきやすくなると子供の水難事故が増えるのではと不安になる声もありました。

・高速自動車国道の整備においては、地元市内で完成を見越した製造業の企業誘致が図られ、製造業の企業数、売上高がともに約2割増加し、沿線における地域開発の促進に寄与しています。さらに、小中学校の開校等による転入者の増加により、空き家や空き店舗を活用した新たな事業が創出され、沿線地域の開発が促進されています。

・現道の拡幅事業においては、公共施設管理者負担金制度の活用により土地区画整理事業と連携して早期取得した用地を用いて、バス停車帯の暫定整備を実施しました。

また、本事業が基盤整備の骨格となり、沿線地区は住居・工業・商業系地域からなる市街地を形成、大型小売店舗や道の駅の立地等を促し、地域生活拠点機能の充実と沿線地域の活性化に寄与しています。

一方、本事業完了後においても、一部に依然として渋滞が発生している箇所があることから、隣接する事業との連携により、効率的・効果的な整備計画を立案し事業を推進する工夫が必要であったと考えられる。

### 【知見】

・地元の市や区画整理事業等、関係機関としっかりと連携しプロジェクトを進めたことで、インフラ

のストック効果が効果的に発現したものと考えられます。

一方で、プロジェクトを実施したことで水難事故等が不安であると周辺住民の声をいただいたり、プロジェクト後においても道路渋滞が一部解消されないなどの事例もありました。

今後、これらの事例を参考に類似のプロジェクトを進めることで、より熟度の高い事業効果が得られるものと考えられます。

## ２．景観・環境保全等への配慮について

以下のとおり、プロジェクト実施にあたり、景観・環境保全等へ配慮した事例がありました。

・官庁営繕事業において、屋上に太陽光発電設備を設け日中の電気負荷を削減する取り組み、雨水利用・屋上緑化・木材の利用推進など資源の有効活用を図る整備を実施しました。

また、木材の利用を促進することで、温もりのある快適な生活空間の形成や、地球温暖化防止及び循環型社会の形成等に貢献しています。

さらに、地元の文化を継承する意匠を景観に取り入れることで、歴史的な町並みのつながりや街の魅力・賑わいの演出に寄与しています。

### 【知見】

・地域の特徴を十分に捉えた上でプロジェクトが進められ、一体感のある街並みの形成、歴史的街並みとのつながりなど、良好な景観形成がされています。プロジェクが目的とする効果だけではなく、景観等にも配慮して進めたことで地域にも受け入れられているものと考えられます。

## ３．コスト縮減、工期短縮、作業員の負担軽減について

以下のとおり、プロジェクト実施により、コスト縮減や工期短縮、作業員の負担軽減が図られた事例がありました。

・高速道路整備において、佐久南IC部の長大橋梁を盛土に変更、縦断勾配の見直しにより、法枠工実施面積の削減、橋梁延長の減少、土工規模の縮小等により、約70億円のコスト縮減効果が得られた。

・河川事業における橋梁架け替えにおいて、長期間の事業期間であったことから、震災による工事の中止や鋼材の高騰等予期し得ない事象が発生したが、新技術の採用や建設副産物の再利用等を行うことで、コスト縮減や施工性を向上させ、事業費への影響を最小限に抑えることができました。

## 【知見】

・今回のプロジェクトでは、橋梁延長を縮小し盛土に変更する等の構造変更や、震災等の予期し得ない事象に対しての影響を最小限に抑えるなど、個々の課題に応じて適切な工夫がなされ、コスト縮減が行われています。
これらの事例は今後同様の事業において参考になると考えます。

# 編集後記

今回のアーカイブス No9は、関東地方整備局で取り組んできた官庁営繕、河川環境整備、高速道路整備・道路拡幅整備、など令和4、5年度までに完了した多様なプロジェクトを掲載しています。

プロジェクトの実施にあたっては、関係機関・事業との調整や連携等、環境への配慮、付加機能の確保等様々な工夫がなされています。

本誌は、今後、新たなプロジェクトに取り組んでいく方の参考となるよう、このような様々なプロジェクトで得られたレッスン、考察などをとりまとめたものです。作成にあたっては一般の方にもわかりやすいよう表現や体裁に気をつけるとともに、シリーズであることがわかるよう表紙のデザインなどこれまでの要素を残しています。

本誌を発行するまでには、久保田委員長をはじめ関東地方整備局事業評価監視委員会の皆様方に多大なるご指導を賜り、大変感謝しております。事務局一同、ご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。

本誌が、今後のプロジェクトに大いに役立つことを期待するとともに、一般の方にもご覧いただき、関東地方整備局の取り組みについて理解がいっそう深まることを願っております。

（2024.6　関東インフラプロジェクト・アーカイブス（No,9）編集担当事務局）


**【関東インフラプロジェクト・アーカイブス（No,９）編集担当部局】**

| | | |
|---|---|---|
| 営繕部 | 調整課 | 長野国道事務所 |
| 河川部 | 河川計画課 | 相武国道事務所 |
| | 河川環境課 | 宇都宮営繕事務所 |
| 道路部 | 道路計画第一課 | 東京第二営繕事務所 |
| 企画部 | 企画課（事務局） | 京浜河川事務所 |
| | | 常陸河川国道事務所 |

# 関東インフラプロジェクト・アーカイブス

2024年6月 初版第一刷発行

編集・発行：国土交通省　関東地方整備局　企画部企画課
TEL　048-601-3151（代表）

この冊子は再生紙を使用しています。